

〔古事記傳六〕或書に葦牙に喩しより名る由云るは上代の意に非ずさては原と云ひ中と云こと由なし、又中國と云を漢國の人のみづからほこりて、中華、中國と云と同じさまに説なすも、彼をうらやみたるひがことなりたゞ葦原の中なる物をや、又この葦原、中國といふは、西九州をさすと云は、高天原を大和國のことぞと誤り思ふから出たる強説なり。

〔古事記上〕爾伊邪那岐命告桃子汝如助吾於葦原中國所有宇都志伎此四字以音青人草之落苦瀨而患惣時可助告賜名號意富加牟豆美命自意至以音

〔天三輪神三社鎮座次第〕初伊弉諾伊弉册二神共爲夫婦生大八洲國及處々小島而地稚如水母浮漂之時、大己貴命與少彦名命戮力一心殖生蘆葦、固造國地、故號曰國造、大己貴命因以稱曰葦原國。

〔書言字考節用集二〕乾坤瑞穗國日本一名

〔國號考〕葦原中國

水穗國を附
いふ〇中略

これを。葦。原。之。水。穗。國。ともいへり、豊は美稱にて大八島の大のたぐひなり、そは此國號へすべて係れり、葦のみにかけて云にはあらず、葦原は上件にいへるが如し、水の字は借字にて、物のうるはしきをほむる言にて、これは穗をほめたるなり、書紀に瑞字を書れたるはあらず、彼字につきて、祥瑞などの意とな思ひまがへそ、穗は稻穗をいへり、葦のにはあらず、凡て稻穗をたゞに穗とのみいへるは萬葉に秋穗などもいひ、書紀に天照大神又勅曰、以吾高天原所御齋庭之穗亦當御於吾兒とあるがごとし、さて皇國は萬の事も物も、異國にはまされる中にも、稻は殊に萬國に比ひなく、はるかにすぐれて、いと美好きこと、神代よりかくのごとく深き由緒のありて、今に至るまで、まことに水穗國の名に負へるたふとさ、いふもさらなるを、天の下の諸人か、るめでたき稻をしも、朝夕に給べながら、皇神の御惠をおろそかに思ひなすべきわざかは、

〔古事記上〕天照大御神之命以豐葦原之千秋長五百秋之水穗國者、我御子正勝吾勝勝速日天忍穗